

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195200019		
法人名	有限会社 ラポートケア		
事業所名	グループホーム 和 とりさと館		
所在地	北海道網走郡美幌町鳥里2丁目5-12		
自己評価作成日	令和5年1月17日	評価結果市町村受理日	令和5年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地的に居間・食堂の前には公園があり子供達が遊ぶ様子が見られ入居者様にとっては癒しの一つとなっている。また、日中も日差しが入り、玄関前の通路は近所の方々が通られ手を振ってくれたりし地域の方々に根付いてきている。秋には自治会の運動会があり参加したり出れない方も居間から見て頂いたりしている。利用者さんの楽しみの一つになっている。自治会の役員の方皆さんも開設時から協力的であり自治会の総会も向こうから誘って頂いたり運営推進会議や避難訓練にも積極的に参加してくれる。職員や管理者が普段から近所の方への挨拶や世間話をし、入居者もたくさんの関わりを持って、一軒家として第二の我が家になってきている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	u.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195200019-00&Serv
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時からの理念「1.自由に、ゆったり、ありのままに」和のある生活をおくっていただけます。1.一人ひとりの「そのひとらしさ」を尊重します。「第二の我が家」を目指して地域とふれあいますし、利用者の暮らしを支え、事業所が我が家であり気ままなその人らしい生き方を保証し、尊敬を持って支援にあたるようにカンファレンスに力を入れ利用者の生活維持に努めるよう取り組んでいます。日常生活、掃除や洗濯のたため、調理の下ごしらえなど利用前の当たり前のことをできる限り見守ることを主に出来ないことをさり気なく支援しています。利用者が廊下を歩く、一緒に体操をするなど意欲な行動に繋がるように心掛けています。コロナ禍の中でも社会福祉協議会のボランティアを活用して音楽教室に通っている小学生～高齢の方の音楽の慰問を受け入れ利用者が楽しめるような試みを行っています。職員間の意識改革を目指して言いづらいことをノートに記載し、回覧し職員の職場改善や介護向上に役立てたり、外国人の実習生を積極的に受け入れ支援しています。感染対策として家族の面会支援の意味から窓越し面会から気兼ねなく落ち着いた面会できるようにと面会室を増築し何時でも来所できるように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践に繋げている	理念は、職員の意識や振り返ることが出来るように目につく場所に掲示し、利用者一人ひとりの日々のケアに反映できるように取り組んでいます。パンフレットなどにも記載されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事やイベントがあまりできておらず、以前より交流は少なくなってきた	コロナ禍で町内会や事業の行事が中止となっていますが、町内会の広報や事業所の運営委推進会議報告、ホーム便り等で情報交換を行っています。また、近隣とは公園等の散歩時に挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の方々には、何か困った事などがあつたらいつでも相談をしてくれるように伝えている。また、入居申し込み時にもいろいろ相談に乗っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かしていると思う	コロナ感染予防対策の為、書面での報告となっています。運営推進委員(家族、町役場担当、民生委員、町内会長等)に利用者状況や事故・ヒヤリハット、行事等を郵送で報告し、意見や要望を書面で依頼しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事があれば協力してもらっている	常日頃より町担当者と相談や情報交換に努め運営に活かすとともに、運営推進会議を通じて事業所の実情の理解と協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアに取り組んでいる。施錠に関しては、利用者様の安全を考慮し、日中・夜間問わず施錠をしている	身体拘束廃止の基本方針に基づき、身体拘束・虐待防止委員会は、管理者・各フロア主任、ケアマネで構成され各職員に回覧周知しています。職員は認知症に於ける身体拘束でのリスクを理解しており、不適切なケアや言葉遣いに注意を払いながら身体拘束・虐待をしないケアを心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方はいないが、今後利用する方が出てきたりすることを考え学ぶ機会を増やしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分に説明をしている。疑問や不安点はその都度説明を行い理解して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本来であれば運営推進会議にて意見、要望をもらえればいいが、難しい状況。面会時に機会を設けているが、運営自体の意見はあまりないのが現状である	管理者は、家族が来所時や利用者の体調面、受診の電話連絡・結果などを連絡した際に家族の要望や意見を聞き取っています。面会禁止や窓越し面会等に対応していますが、月1回のホーム便りで活動状況を利用者の顔写真入りと個々のコメントを添えて送付し、家族の安心に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等にて意見や提案を聞いたりするが、運営についての意見は出てこない	ユニット毎に定期的にカンファレンスを中心に予め職員の意見を集約したものを基に利用者状況を把握したり、意見やアイデア等を話し合い改善に繋がるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や有給休暇は出来るだけ調整し対応している。正社員も今後は増やしていきたいと考えている。賃金については介護報酬の事も難しい状況にあるが出来るだけのことはしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は一部の職員しか参加はしていない、働きながらトレーニングは個人差がある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会ほとんどない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事・不安なことに対し、耳を傾けている。本人が安心できる関係性を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞き利用者の近況を伝えることで信頼を築けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援ができるように見極めを行い、本人に合ったサービスを提供できるよう努力している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは行ってもらっているが、共にする者同士の関係性にはなりきれていない		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に支え合えるような関係性を築いていけるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、馴染みの方と会うことや、場所に行くことは控えている。必要に応じて、電話で連絡をとるようにしている	知人の面会では事前予約の上面会を行っています。移動図書を利用した読書や新聞を楽しんでいる利用者もいます。また、年賀状や手紙のやり取りをされている方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の自尊心を大切に向き合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談・支援を行えるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを第一に考え、出来る限り自由な暮らし方ができるよう支援している	利用前の生活を維持できるように、利用者や家族の意向を考慮しながらその時の状況に合わせた支援に努めています。利用者の日常の言葉や表情等で思いを汲み取り穏やかに暮らせるよう配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行い、生活状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の希望を把握し、望む暮らし方が出来るように支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の話を聞きモニタリングをしてサービス内容を確認。家族の意見も聞きながらプランに反映している	6ヶ月に1回見直しを行い、利用者の”どう暮らしたいのか”の現状と意向を把握し、モニタリングやユニット会議のカンファレンスを中心に職員などの意見を踏まえ、家族の意見を聞き取りながら了承を得て介護計画を作成しています。	職員がより介護計画の理解を推進するため介護計画と日々の成果が記載されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて職員が同じ対応をするようにしている。情報を共有し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画をサービスの基本としてその時に応じて対応する		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会にボランティアの依頼をすることもあるが、現在はお願する回数は減少している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院と連絡を取り合い健康管理に努めている	希望する係りつけ医の受診は事業所が行っており、月1回の往診、2週に1回の歯科検診、月2回の訪問看護により、利用者の健康管理を行い安心と信頼に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護の依頼をし、普段の状況を伝えている。状況の変化があれば相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、互いにアセスメント情報交換や相談に努めている。定期的に受診をしていることもある為、その際に、現状を伝えている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	生前に、本人・家族の意思を確認。研修会・勉強会を実施している	契約時に利用者や家族の思いや意向を聞き、終末期や重度化について確認し理解を得ています。終末期で再度本人・家族等に確認し、看取りの場合は医師との説明の上、看護師、職員と連携し出来る限り意向に沿った支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていないが、緊急マニュアルを作成し掲示している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。災害についての避難場所の確認、防災道具、非常食の準備をしている	年2回の火災訓練では消防立会いのもと夜間想定で消火器訓練等を実施しています。災害に備えコンロ、ポータブルストーブ、カイロ、水、非常食を備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傷つけない声掛け、一人ひとり尊重した対応をしている	基本○○さんで、愛称などは家族の了承を得て呼んでいます。トイレや風呂などの声掛けは大きな声で誘導しないようプライバシーを損ねない配慮を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや、希望を表された時は、話を聞き本人の意思を大事にする		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先していることがあるので、気を付けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に服を選んでもらったり、ご自身で選択できない方は、職員で支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや、食材の皮むきなどを一緒に準備している	その時にある食材で職員は調理し提供しています。料理に下ごしらえ(洗い、切る)、茶碗拭き等を職員と一緒に出来る事を行っています。行事食はデリバリーをとったり、誕生会は本人の希望を聞きながら楽しみとなるように心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは考えて食事を提供している。水分量の少ない方は声かけや、好きなものを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。寝る前は義歯を外し洗浄。自身で出来ない方は、介助をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方には、定期的にトイレの声かけをすることでオムツの使用を軽減している	トイレでの排出を基本とし、声掛け誘導や自ら行く方もおり立位や歩行能力に合わせ、排泄の自立に取り組んでいます。夜間は利用者の安全のため、パット交換やおむつ、ポータブルトイレを利用する方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行い便秘予防に努めている。改善が見られない時は、薬をし予防している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めて実施している。本人の希望のある時は希望に沿うように支援している	入浴は週2回の午後を基本とし、中には見守りで1人で入浴する方もいます。会話をしながらゆったりと入浴して頂くように心掛けています。同性介助希望や入浴を嫌がる方には意向に沿いながら無理強いせず支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によっては休む時間を決めて支援している。好きな時間に居室で休めるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書を個人ごとにファイルに綴じ、全員が確認できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ることを手伝ってもらい、気分転換に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った外出支援ができていない	小グループで東藻琴山の芝桜見物ドライブに行き利用者の楽しみとなるように努めています。天気の良い日には公園や事業所の周りを散歩し気分転換になるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で所持している方もいるが、使用する機会はない状態		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者は自ら掛けて話をされている。電話を掛けたいと訴えがある時は、電話を掛けれるよう対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が過ごしやすいよう清潔に保たれたり居心地の良い雰囲気作りをしている	共用スペースには利用者と一緒に作った四季折々の飾りつけやイベントの飾りつけがなされています。本人の感情・意思を尊重し利用者の思い思いに過ごせるように話しかけや見守りを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方同士が話をされたり、一人でTVを観られたり一人ひとりが過ごしやすいようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を活かし、居心地の良いようにしている	居室では、収納し易いクローゼットやベットが配置されています。家具や仏壇、家族の写真など思い出の品々が持ち込まれ、その人らしい空間でゆったり過ごしやすい環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を理解してできるだけ自立した生活が送れるようにしている		